

-----

[ 成果情報名 ] 「雪姫」「秋華」の挿し穂及び発根苗の低温処理による生育・開花促進

[ 要約 ] 本県で育成した電照栽培用秋ギク「雪姫」と「秋華」は、電照抑制12月出し栽培では挿し穂及び発根苗の低温処理を行って夜間最低気温15℃で栽培することにより、茎伸長がよくなり、開花が促進する。

[ キーワード ] 秋ギク、電照抑制栽培、穂苗の低温処理

[ 担当部署 ] 花き部・花き栽培チーム

[ 連絡先 ] 092-922-4958

[ 対象作目 ] 花き・花木      [ 専門項目 ] 栽培      [ 成果分類 ] 技術改良

-----

[ 背景・ねらい ]

本県で育成した「雪姫」は、従来品種の「神馬」と比較して花形がよく、側枝数が少ないことから摘蕾作業の省力化に寄与できる。また「秋華」は、花色が濃黄色で側枝数が少なく、電照打切りから収穫までの期間が「精興の秋」より短いことから、省力・低コスト生産が可能な品種としていずれも県内産地に普及しつつある。近年、暖房経費の高騰等により生育期間の短縮が大きな課題であり、定植後の茎伸長の増大や開花促進の技術確立が望まれている。

そこで、「雪姫」の茎伸長の促進及び「秋華」の開花促進のための挿し穂及び発根苗の低温処理方法と効果について明らかにする。（要望機関名：生産流通課、朝倉・八女・飯塚・田川普及センター、JAふくれん（H15））

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1．電照抑制12月出し栽培において、「雪姫」及び「秋華」の発根苗を低温処理することにより、定植後の茎伸長がよくなり、開花までの到花日数が短くなる。茎伸長能力は、発根苗の低温処理6週間まで長いほど、また夜温12.5℃と比較して20℃で栽培するほど高まる。それに対して開花日は、「雪姫」では4週間、「秋華」では2週間の低温処理を行って高温下で栽培すると促進する（図1，図2）。
- 2．夜間最低気温を15℃とした実用栽培では、「雪姫」の挿し穂及び発根苗の低温処理をそれぞれ3週間行って定植することにより、無処理と比較して切り花長が長くなり、収穫日は「神馬」と同時期となる。「秋華」についても同様の効果が得られる（表1）。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1．「雪姫」と「秋華」の定植後の茎伸長及び開花促進技術として栽培指針に登載する。
- 2．発根苗のみの低温処理では、「雪姫」及び「秋華」とも4週間を限度とする。

[ 具体的データ ]

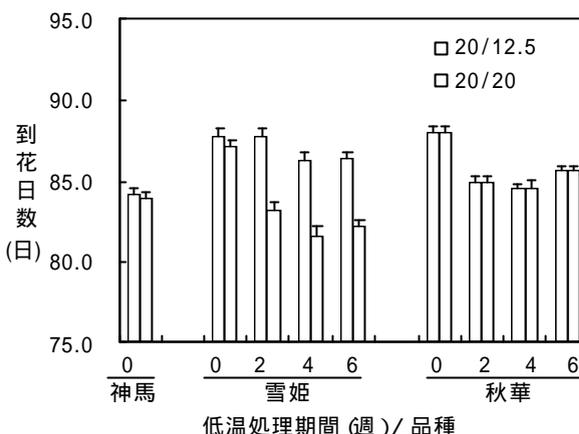
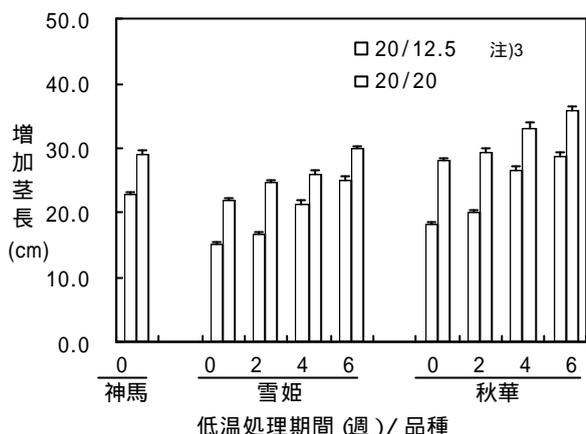


図1 「雪姫」及び「秋華」の発根苗の低温処理期間と定植5週間後の増加茎長との関係 (平成18年)

図2 「雪姫」及び「秋華」の発根苗の低温処理期間と電照打切り後の到花日数との関係 (平成18年)

- 注) 1. 発根苗を2.5℃で低温処理  
 2. 9月12日定植、10月23日電照打切り  
 3. ファイトトロンでの昼(7:00-19:00)/夜温(19:00-7:00)

表1 「雪姫」及び「秋華」の挿し穂及び発根苗の低温処理と定植後の生育・開花 (平成19年)

品種・系統	挿し穂及び発根苗の低温処理の有無	平均収穫日 (月/日)	平均開花日 (月/日)	切り花長 (cm)	葉数	側枝数	重量 (g)	90cm重量 (g)	小花数	
									舌状花	筒状花
雪姫	有	12/ 7	12/15	98.0	56.7	22.7	98.7	94.6	176.8	116.3
	無	12/ 9	12/17	93.0	55.0	21.6	96.0	93.8	175.7	112.8
秋華	有	12/ 8	12/18	117.0	45.8	19.3	90.2	83.2	177.3	24.0
	無	12/11	12/19	115.7	43.8	18.5	84.3	80.5	171.7	11.0
神馬(対照)	無	12/ 7	12/13	102.8	54.5	49.6	119.7	111.0	160.7	87.3
神馬2号(対照)	無	12/ 6	12/11	99.2	53.8	48.5	95.0	90.2	147.8	97.2

- 注) 1. 挿し穂及び発根苗をそれぞれ2.5℃で3週間処理後、9月12日定植、10月23日電照打切り  
 2. 硬質板ハウスで夜間最低気温15℃で栽培、日中25℃で換気

[ その他 ]

研究課題名：秋ギクおよび夏秋ギク新品種の作型適応性の検討と栽培技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成19年度(平成17~24年)

研究担当者：谷川孝弘、松野孝敏、國武利浩